

本資料の第三者への開示、複写、転用、転載はご遠慮ください。

地域医療構想における対応方針

【地域医療構想調整会議】

目次 地域医療構想における対応方針

医療圏	市町村	病院名	高度急性期を担う病院	重症急性期を担う病院	新公立病院改革プラン策定病院	公的医療機関等2025プラン策定病院	ページ
南和	五條市	五條病院			■		5001
	吉野町	吉野病院			■		5001
		潮田病院					
	大淀町	南奈良総合医療センター 弘仁会南和病院	◎		■		5001 5011
中和	橿原市	奈良県立医科大学附属病院	◎			□	5017

機能毎の病床数等(医療機関別)抜粋

...H28からの増床 ...H28からの減床 (単位: 床)

Table with columns for medical institution, location, and bed counts across different periods: 当初 (Initial), 現在 (Current), and 将来 (Future). It includes sub-columns for acute, chronic, and recovery periods, and specific bed types like general, psychiatric, and nursing.

機能毎の病床数等(医療機関別)抜粋

…H28からの増床 …H28からの減床 (単位:床)

医療圏	市町村	通し番号	病院名	設立主体	当初 <H28年度>許可病床数							現在 <R1年度>許可病床数							将来 <R7/2025年度>							通し番号							
					高度急性期	急性期		回復期	慢性期	休棟中	一般病床・療養病床計	精神病床	高度急性期	急性期		回復期	慢性期	休棟中	一般病床・療養病床計	精神病床	介護医療院	一般病床・療養病床計	精神病床	高度急性期	急性期		回復期	慢性期	休棟中	一般病床・療養病床計	精神病床	介護医療院	
						重症急性期	軽症急性期							重症急性期	軽症急性期										重症急性期								軽症急性期
西和	大和郡山市	36	国立病院機構やまと精神医療センター	公的等				100		100	183					100	183		100	183						100	183				36		
		37	奈良厚生会病院	その他				298		298				60		60		238	49						60		60		238	37			
		38	JCHO大和郡山病院	公的等	8	144	83				235		4	179	40		223			223		0	183	0	40			223			38		
		39	田北病院	その他		46	46	118			210			92	30	88				209			92	30	88			210			39		
		40	郡山青藍病院	その他		60	40		40		140			60	40	40				140			60	40		40		140			40		
		41	藤村病院	その他					45		45					45				45						45		45			41		
	生駒市	42	近畿大学奈良病院	その他	518					518		470				48	518			469		518					518				42		
		43	阪奈中央病院	その他		45	120	45	45	255			88	77	90		255			241		未定					0				43		
		44	白庭病院	その他		100			50	150			100	0	50		150			150			100		50	0		150			44		
		45	東生駒病院	その他				83	38	121				0	83	38	121			121				83	38			121			45		
		46	倉病院	その他		60				60			60	0			60			60			60					60			46		
		47	生駒市立病院	公立	7	51	100			210		8	150	52			210			191		8	202	0			0	210			47		
		三郷町	48	奈良県西和医療センター	公立	4	296				300		8	292				300			300		8	292				300			48		
			49	ハートランドしぎさん	その他					47	47					47		47			47						47		47	653	49		
		上牧町	50	西大和リハビリテーション病院	その他				99	100	199					99	100	199			177						149	50	199			50	
51			奈良友誼会病院	その他			49		143	192			49		143		192			189			49			143	192			51			
52	服部記念病院		その他			120		42	162			120		42		162			162			120			42	162			52				
王寺町	53	恵王病院	その他		52	53			105			52	53		105			105			52	53				105			53				
計					537	854	611	345	948	52	3,347	836	490	1,073	421	450	615	48	3,097	836	238	2,978	836	534	1,041	292	410	565	0	2,842	836	238	
中和	葛城市	54	當麻病院	その他					0	222								222								0	222		54				
		55	関屋病院	その他				350		350					350		350			350					340		340			55			
	香芝市	56	香芝旭ヶ丘病院	その他			99			99			50	49		99			99			50	49				99			56			
		57	香芝生喜病院	その他	10		91		50	151		10	45	91		50	45	241		196		10	90	91	50	0	241			57			
		58	奈良県立医科大学附属病院	公的等	460	322	67			849	108	423	367	66		19	875	108		823	104	423	367	66			19	875	108	58			
	橿原市	59	平成記念病院	その他		180		120		300			180		120		300			300		10	170or140		120or150			300			59		
		60	平成まほろば病院	その他				116		116					116		116			116				116			116			60			
		61	万葉クリニック	その他						0	240						240			240							0	240			61		
		62	橿原リハビリテーション病院	その他				205		205					205		205			205						205		205			62		
		63	大和橿原病院	その他		101	48			149			101	48			149			149			101	48				149			63		
		64	平尾病院	その他		47	52		22	121			47	52		22	121			121			47	52		0		99		22	64		
		65	樋上病院	その他			54			54		有床診療所に転換					54			54		有床診療所に転換(R1.11より)						54			65		
		66	錦織病院	その他			30			30				30			30			30				30			30			66			
	高取町	67	飛鳥病院	その他						0	388						388			330		未定					0			67			
	大和高田市	68	大和高田市立病院	公立		249	71			320		8	241	20	51		320			320			249	20	51			320			68		
69		土庫病院	その他		151		48		199			151	0	48		199			199			151		48			199			69			
70		中井記念病院	その他		35	45			80			35	45	0		80			80			35	10	35			80			70			
71		吉本整形外科・外科病院	その他		57				57			57				57			57			57					57			71			
御所市	72	済生会御所病院	公的等		82	49	36		25	192			95	72	23	190			167			0	95	72		23	190			72			
	73	秋津鴻池病院	その他				79	42	121	423				79	42	121	423			121	376		79	42			121	423		73			
計					470	1,224	606	399	669	25	3,393	1,381	441	1,274	496	486	669	87	3,453	1,377	0	3,333	1,226	443	129or1324	461	571or601	587	42	3,421	993	22	
南和	五條市	74	五條病院	公立					90	90				45	45	90			71			0		45	45		90			74			
		75	吉野病院	公立			50		46	96				50	46	96			96				0	50	46		96			75			
	大淀町	76	潮田病院	その他					60	60					60				60		介護医療院に転換(R2.1より)					0		0		60	76		
		77	南奈良総合医療センター	公立	8	184		36		228		8	184		36		228			228		8	184		36		228			77			
		78	弘仁会南和病院	その他			42		96	138				42	96		138			134				30~32		96		126~128		10~12	78		
計					8	184	92	36	202	90	612	0	8	184	42	131	247	0	612	0	0	589	0	8	184	30~32	131	187	0	544~546	0	70~72	

*H28年度及びR1年度の許可病床数は、病床機能報告の数値です。ご提出いただいた「地域医療構想における対応方針」と異なる場合は、修正をお願いします。
*将来の病床数の医療圏毎の合計には「未定」の数を含んでいません。

*将来の病床数の医療圏毎の合計には「未定」の数を含んでいません。

地域医療構想における対応方針

機能毎の病床数(医療圏別)

令和2年2月12日作成

【奈良県全体】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	1466床	1396床	1483床	▲ 17
急性期	重症急性期	4541床	4532床	▲ 9
	軽症急性期	1992床	1913床	▲ 478
回復期	1895床	2445床	2667床	▲ 772
慢性期	3174床	2597床	2347床	▲ 827
有床診療所	455床	394床	394床	▲ 61
休棟等	638床	537床	395床	▲ 243
合計	14361床	13902床	13731床	▲ 630

地域医療構想における対応方針の提出状況

	病院数	提出数
奈良県全体	77	77
奈良医療圏	23	23
東和医療圏	12	12
西和医療圏	18	18
中和医療圏	19	19
南和医療圏	5	5

※瀬田病院含む

(令和2年1月全床介護医療院に転換)

【奈良医療圏】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	64床	98床	116床	52
急性期	重症急性期	1317床	1319床	▲ 61
	軽症急性期	564床	468床	▲ 96
回復期	636床	847床	904床	268
慢性期	1087床	838床	780床	▲ 307
有床診療所	94床	87床	87床	▲ 7
休棟等	29床	49床	0床	▲ 29
合計	3854床	3704床	3674床	▲ 180

【東和医療圏】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	397床	359床	382床	▲ 15
急性期	重症急性期	659床	613床	▲ 46
	軽症急性期	659床	565床	▲ 74
回復期	479床	531床	531床	52
慢性期	318床	228床	228床	▲ 90
有床診療所	88床	81床	81床	▲ 7
休棟等	119床	65床	65床	▲ 54
合計	2719床	2522床	2485床	▲ 234

【西和医療圏】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	537床	490床	534床	▲ 3
急性期	重症急性期	1073床	1129床	275
	軽症急性期	611床	421床	▲ 242
回復期	345床	450床	500床	155
慢性期	948床	615床	565床	▲ 383
有床診療所	93床	93床	93床	0
休棟等	52床	48床	0床	▲ 52
合計	3440床	3190床	3190床	▲ 250

【中和医療圏】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	460床	441床	443床	▲ 17
急性期	重症急性期	1265床	1287床	22
	軽症急性期	465床	496床	▲ 4
回復期	399床	486床	601床	202
慢性期	619床	669床	587床	▲ 32
有床診療所	121床	74床	74床	▲ 47
休棟等	348床	375床	330床	▲ 18
合計	3677床	3815床	3783床	106

【南和医療圏】

	当初 <H28年度> 許可病床数	現在 <R1年度> 許可病床数	将来 <R7/2025年度>	増減 (将来-当初)
高度急性期	8床	8床	8床	0
急性期	重症急性期	184床	184床	0
	軽症急性期	92床	42床	▲ 62
回復期	36床	131床	131床	95
慢性期	202床	247床	187床	▲ 15
有床診療所	59床	59床	59床	0
休棟等	90床	0床	0床	▲ 90
合計	671床	671床	599床	▲ 72

【留意事項】

・将来<R7/2025年度>の病床数を未定と回答された医療機関の病床数及び将来<R7/2025年度>の有床診療所の病床数については、現在<R1年度>許可病床数に置き換えて集計しています。

・将来<R7/2025年度>の病床数について、幅をもたせて回答されている場合は、急性期から他機能への転換が最大行われた状態を想定して病床数を集計しています。



南和広域医療企業団
南奈良総合医療センター・
吉野病院・五條病院
地域医療構想における対応方針

令和元年12月作成

病院名：南和広域医療企業団

(南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院)

医療圏：南和保健医療圏

1. 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

1 必要病床の確保

2025年には南和保健医療圏では、高度急性期病床が不足する一方、急性期病床・慢性期病床は過剰になると推計

① 高度急性期病床

高度急性期病床として、南奈良総合医療センターにHCU8床を整備。当面は奈良県立医科大学附属病院との連携により病床を確保する方針。

② 回復期病床

南奈良総合医療センターに回復期リハビリテーション病床 36床、吉野病院に一般病床 50床のうち地域包括ケア病床 15床を整備。五條病院に一般病床 45床のうち地域包括ケア病床 14床を整備。

2 医療提供体制の確保

企業団発足により、地域医療構想で示された課題に対してすでに一定の成果が現れている状況。今後、その成果を評価しつつ以下の事項に取り組む。

① がん

南奈良総合医療センターが、平成29年4月に地域がん診療病院の指定を受けた。がん患者への治療から緩和ケア、リハビリテーション、在宅ターミナルケアまでチーム医療で取り組み、がん医療の質の向上を図る。

② 脳卒中

南奈良総合医療センターでは、脳卒中に対する手術による治療をはじめ血栓溶解療法（t-PA投与）の適用実績を有し、急性期を脱した患者の集中的なリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病床が稼働。また、吉野病院と五條病院が回復期・慢性期を担うシームレスな医療提供体制を構築。ドクターヘリの活用によりアクセスを確保。

また、2019年9月から、一次脳卒中センター（PSP）の認定を受け、対応している。

③ 急性心筋梗塞

中南和医療連携区を設定し、ドクターヘリの活用も進めて医療提供体制を確保。心筋梗塞における診断・治療、心臓リハビリテーションの実施、再発予防に取り組む。

④ 糖尿病

南奈良総合医療センターでは、診療科としては、糖尿病専門医を中心に血糖コントロールが困難な症例や合併症の進んだ症例の治療を行い、糖尿病センターではチーム医療として、糖尿病合併症（腎症、網膜症、神経障害、心臓脳血管疾患、足病変、歯周病）のトータルケアを実施。

⑤ 救急医療

南奈良総合医療センターでは、救急センターをチーム医療として設置。

平成 29 年 3 月下旬のドクターヘリの運航開始により搬送時間の短縮による救命率の向上など、さらに救急医療機能の向上に取り組む。

⑥ 周産期医療

南奈良総合医療センターと奈良県立医科大学附属病院が連携する医療連携区域を設定。

南奈良総合医療センターでは産婦人科で妊産婦健診、小児科で新生児健診を実施する体制を確保し、分娩は奈良県立医大附属病院で対応するという周産期医療体制を構築。また、診療情報をリアルタイムで共有する情報ネットワークシステムを構築。

⑦ 小児救急医療

南奈良総合医療センターでは、小児二次輪番病院（中南和）に参画し、中南和医療連携区域における小児救急患者の受入体制を確保、また、平日の午後5時から7時まで外来診療を行い、一次救急医療に取り組む。

3 在宅医療の取り組み方針

南奈良総合医療センターに在宅医療支援センター、吉野病院・五條病院に在宅医療支援室を置き、医師、看護師のほか、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などのスタッフが連携し、在宅療養支援病院として地域のニーズに対応した訪問診療、訪問看護を実施。

南奈良総合医療センターでは、在宅療養されている患者さんやご家族が安心して自宅で過ごせるよう、地域のかかりつけ医からの求めに応じて緊急時の入院を受入。

また、ICTを活用し、電子カルテと連動したシステムを運用。

② 自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

※地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり
明らかになるようご説明ください。

企業団3病院では、構想区域内において、急性期から回復期・慢性期医療、在宅医療に至るまでを担う

がんの専門医療や脳卒中、急性心筋梗塞治療の一部（高度急性期）及び周産期医療等で、南奈良総合医療センターで対応できない治療については、奈良県立医科大学附属病院との連携により対応

構想区域内での医療需要充足割合を高めるため、南奈良総合医療センターにおける救急医療、がん、脳卒中、糖尿病などの専門診療の充実を推進
吉野病院及び五條病院における回復期・慢性期医療の充実、推進
企業団3病院における在宅医療の充実・推進

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

※複数病院間の連携協定など具体的な取組（予定も含む）があれば、相手方の病院名やその取組の内容をできるかぎり明らかになるようにご説明ください。

○南奈良総合医療センターは、地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施により、病病連携及び病診連携の強化を図る。

○回復期・慢性期医療について、企業団3病院と慢性期を担う病院との連携を図る。

○構想区域内の受療動向等を踏まえて、五條病院における医療療養病床の追加運用の検討。

※行が足りない場合は適時、行を増やしてください。複数枚になっても結構です。

様式 2

2. 地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※様式1を踏まえた具体的な計画について記載してください

① 機能毎の病床数のあり方等について

※ (a)の列は、同封している「病床数一覧」のH28年度の数値を記入してください。

南奈良総合医療センター

		(a) 〈H28年度〉 許可 病床数	※R元年度病床機能報告等の数値を記入			(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減	
			〈R元年度〉 許可 病床数	稼働 病床数				非稼働 病床数(注1)
一般病床・療養病床	高度急性期	8床	8床	8床	0床	8床	0床	
	急性期	重症	188床	184床	184床	0床	184床	0床
		軽症	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	回復期	36床	36床	36床	0床	36床	0床	
	慢性期	0床	0床	0床	0床	0床	0床	
	休棟中	0床	0床		0床	0床	0床	
	(合計)	232床	228床	228床	0床	228床	0床	
精神病床	0床	0床	0床	0床	0床	0床		
介護医療院		0床	0床	0床	0床	0床		

吉野病院

		(a) 〈H28年度〉 許可 病床数	※R元年度病床機能報告等の数値を記入			(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減	
			〈R元年度〉 許可 病床数	稼働 病床数				非稼働 病床数(注1)
一般病床・療養病床	高度急性期	0床	0床	0床	0床	0床	0床	
	急性期	重症	0床	0床	0床	0床	0床	0床
		軽症	50床	0床	0床	0床	0床	△50床
	回復期	0床	50床	50床	0床	50床	50床	
	慢性期	46床	46床	46床	0床	46床	0床	
	休棟中	0床	0床		0床	0床	0床	
	(合計)	96床	96床	96床	0床	96床	0床	
精神病床	0床	0床	0床	0床	0床	0床		
介護医療院		0床	0床	0床	0床	0床		

五條病院

		(a) 〈H28年度〉 許可 病床数	※R元年度病床機能報告等の数値を記入			(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減		
			〈R元年度〉 許可 病床数	稼働 病床数				非稼働 病床数(注1)	
一般病床・療養病床	高度急性期	0床	0床	0床	0床	→	0床	0床	
	急性期	重症	0床	0床	0床		0床	0床	0床
		軽症	0床	0床	0床		0床	0床	0床
		回復期	0床	45床	45床		0床	45床	45床
	慢性期	90床	45床	26床	19床		45床	△45床	
	休棟中	0床	0床		0床		0床	0床	
	(合計)	90床	90床	71床	19床		90床	0床	
精神病床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床		
介護医療院		0床	0床	0床	0床	0床	0床		

医療法人八甲会 潮田病院
地域医療構想における対応方針

令和元年 12 月作成

病院名：医療法人八甲会 潮田病院 医療圏： 南和

1. 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について令和2年1月1日より介護医療院へと全床転換を行う。

病院ではなく診療所を併設する介護施設となるが、引き続き地域の慢性期医療を担う役割を果たす。

② 自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

高額な医療設備や急性期医療は担わず、主に慢性期の療養病棟医療区分2・3の状態に該当せず、老健・特養にも入所困難な要介護者の医療を担っています。

ショートステイ利用でのレスパイト入院にも対応します。

入院中に重症化された場合は、急性期を担う病院へ紹介させていただきたい。

外来診療は受診者数減少とともに縮小していき、訪問・通所リハビリ、訪問看護による在宅ケアを担っていきたい

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

地域包括ケア会議に参加し、訪問・通所リハビリをPR。近隣医療機関からのリハビリ依頼も積極的に受け入れていく。

※行が足りない場合は適時、行を増やしてください。複数枚になっても結構です。

様式 2

2. 地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※様式1を踏まえた具体的な計画について記載してください

① 機能毎の病床数のあり方等について

※ (a)の列は、同封している「病床数一覧」のH28年度の数値を記入してください。

	(a) 〈H28年度〉 許可 病床数	※R元年度病床機能報告等の数値を記入		(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減		
		〈R元年度〉 許可 病床数	稼働 病床数			非稼働 病床数(注1)	
一般病床・療養病床	高度急性期	床	床	床	床	床	
	急性期	重症	床	床	床	床	床
		軽症	床	床	床	床	床
		回復期	床	床	床	床	床
	慢性期	60床	60床	60床	床	0床	-60床
	休棟中	床	床		床	床	床
	(合計)	60床	60床	60床	床	0床	-60床
精神病床	床	床	床	床	床	床	
介護医療院		床	床	床	60床	60床	

医療法人 弘仁会 南和病院
地域医療構想における対応方針

令和2年2月作成

病院名：医療法人弘仁会 南和病院 医療圏： 南和

1. 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

(1) 慢性期医療を中心とした病院運営

①医療必要度の高い長期療養患者の受け入れ

当院では開設以来96床の長期療養病床を運営してきたが、常に95%のベッド稼働率を達成してきた。医療区分制度が導入されてからは、医療区分2と3の占める割合を常に90%以上キープしており、今後もその方針に変わりはない。

②長期入院を必要とする透析患者の受け入れ

生活習慣病の増加に伴い、人工透析患者は年々増加傾向にある。通院透析を受け入れている医療機関は数多くあるが、通院できなくなった長期療養を必要とする透析患者の受け皿が殆どないのが現状ある。当院では開設以来このような患者を受け入れており、今後も積極的に受け入れていく方針である。

③人工呼吸器装着患者の受け入れ

当院では開設以来、呼吸器管理を必要とする患者を受け入れており、現在4人まで可能となっている。

④慢性閉塞性肺疾患（COPD）、神経難病、終末期医療患者などの受け入れ

今後さらに増加してくると考えられるCOPDの患者、緩和医療が必要な終末期の患者、在宅や施設では介護困難な神経難病の患者など、医療必要度の高い患者も積極的に受け入れていきたい。

(2) 急性期一般病棟の運営

①ケアミックスの特色を生かした長期療養患者の急性増悪時の対応

長期療養患者の急性増悪で多いのは、矢張り誤嚥性肺炎であり、次に敗血症である。長期療養病棟には、高齢で感染に対する抵抗力のない患者が多く、感染対策には充分気をつけてはいるが完全に防御することは困難である。病状が軽度の場合には療養病棟のままで対応しているが、重度の場合には可及的速やかに一般病棟に転棟（42床）させることで、適切に対応をすることが出来る。

②胃瘻ボタン交換目的の患者や、肛門疾患患者の受け入れ

摂食機能障害のため当院で胃瘻造設を行った後、近隣の施設に入所している患者は比較的多く、定期的に胃瘻ボタンの交換をしている。その際一泊入院を原則としている。

また、痔核に対するジオン注射療法の患者や、その他の小手術が必要な患者も短期入院させている。

③脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折の患者の受け入れ

当院には回復期病棟はないが、今までもリハビリ目的の患者を多く受け入れてきた。高齢者の転倒による脊椎圧迫骨折後の患者、大腿骨頸部骨折術後の患者などである。早期離床を目指したりリハビリ目的の患者も従来通り受け入れていきたい。

④レスパイト入院の活用

南和医療圏では在宅で老々介護をしているケースが多い。医療的管理をされている方で、介護者が何らかの都合で介護出来ない事態になったとき、当院ではレスパイト入院を利用してもらっている。今後もこのようなケースの場合このシステムを活用していきたい。

② 自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

※地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり
明らかになるようご説明ください。

(1) 慢性期医療の充実

①医療必要度の高い長期療養患者の受け入れ

地域医療構想が進むことで、医療区分1の患者は今後在宅介護となり、施設で多く受け入れることになる。当院では今後とも医療必要度の高い（医療区分1以外）長期療養患者を積極的に受け入れることで、慢性期医療を充実させていきたい。

②通院が出来なくなった透析患者の受け入れ

透析患者の多くは生活習慣病がベースにあって、脳梗塞や心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症を併発するリスクが非常に高い。そうなると通院透析がたちまち困難になるわけで、このような患者も積極的に受け入れていきたい。

(2) 外来の対象患者

①軽症急性期外来患者の受け入れ

2016年4月に、南奈良総合医療センターが同じ大淀町福神に開設されてからは、外来受診の患者は大幅に減少した。即ち、腹痛や発熱、インフルエンザなどで受診する内科患者をはじめ、縫合処置を必要とするような外科患者など、所謂急性期患者である。

しかしながら、外来の機能分化・連携を推進するため創設された「選定療養費制度」の趣旨を踏まえ、今後とも軽症の急性期外来患者を積極的に受け入れていきたい。

②肛門疾患の患者の受け入れ

当院では従来肛門疾患を扱っており、痔核、裂肛、高齢者の肛門脱・直腸脱などこれからも受け入れていきたい。

③予防医学への取り組み

メタボリック症候群をチェックする特定健診や、施設入所患者の定期的健康診断、企業検診などを充実させることで、将来発症するであろう生活習慣病の予防をすること。そして禁煙外来を行いつつ、百害あって一利なしとされている喫煙の啓蒙にも協力していきたい。

(3) 他院への患者紹介

①高度医療が必要となった患者

入院患者の中には、その経過中に急性腹症を併発したり、心筋梗塞、脳卒中など緊急治療を必要とする疾患を併発することがある。このような場合、早急に南奈良総合医療

センターや奈良医大付属病院などに紹介していきたい。

②透析患者のシャント機能不全患者

透析患者でシャント狭窄など、ブラッドアクセスがうまくいかなくなった時、カテーテル拡張術（IVR）、或いは新しいシャント作成術を目的に専門病院（科）に今後も紹介していきたい。

③当院に無い専門科への紹介

皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科など当院に無い専門科での治療が必要な場合は、他院に紹介し、手術を必要とするような骨折、その他の疾患も専門病院（科）に積極的に紹介していきたい。

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

※複数病院間の連携協定など具体的な取組（予定も含む）があれば、相手方の病院名やその取組の内容をできるかぎり明らかになるようにご説明ください。

（1）地域連携室の充実

①病々連携と病診連携

各病院の地域連携室を通して情報の共有化を図り、患者の円滑な紹介と受け入れを図っていきたい。当院のような私立病院にとって、病床稼働率の低下は死活問題であり、効率よく病床を稼働させる必要がある。これは患者にとっても大きなメリットでもある。また、訪問看護や訪問診療を受けている患者の中には、長期療養が必要な疾患を併発することがあり、密な病診連携をとり患者情報を共有していきたい。

②特別養護老人ホーム、老人健康保険施設との連携

老人施設には、反復性誤嚥性肺炎の患者、慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の患者が多く、突然急性増悪することがある。このような患者は、急性期の病院の短期入院では病状の改善は一時的であり、長期間を要することが多い。従って、これからも施設との情報の交換を密にしていきたい。

（2）地域の老人会との連携

地域の老人会の『健康教室』を定期的に行っているが、今後も健康に関する啓蒙活動を続けていきたい。

（3）地域企業との連携

ストレスチェック、企業検診など、産業医としての活動を続け、就労者の健康を守っていきたい。

※行が足りない場合は適時、行を増やしてください。複数枚になっても結構です。

様式 2

2. 地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※様式1を踏まえた具体的な計画について記載してください

① 機能毎の病床数のあり方等について

※ (a)の列は、同封している「病床数一覧」のH28年度の数値を記入してください。

		※R元年度病床機能報告等の数値を記入				(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減
		(a) <H28年度> 許可 病床数	<R元年度> 許可 病床数	稼働 病床数	非稼働 病床数(注1)		
一般病床・療養病床	高度急性期	床	床	床	床	床	床
	急性期	重症	床	床	床	床	床
		軽症	42床	42床	38床	4床	30~32床
	回復期	床	床	床	床	床	床
	慢性期	96床	96床	96床	0床	96床	床
	休棟中	床	床		床	床	床
	(合計)	138床	138床	134床	4床	126~128床	△10~12床
	精神病床	床	床	床	床	床	床
	介護医療院		床	床	床	10~12床	10~12床

奈良県立医科大学附属病院
地域医療構想における対応方針

令和元年 1 2 月作成

病院名：奈良県立医科大学付属病院

医療圏：中和医療圏

1. 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

■自施設の現状

○診療実績

- ・届出入院基本料 特定機能病院入院基本料(7対1入院基本料)
- ・患者数(H30年度実績) 外来:573,559人、入院:311,518人
- ・平均在院日数(H30年度実績) 12.42日(除精神:11.16日)
- ・病床稼働率(H30年度実績) 91.3%

○職員数:(平成31年4月1日現在)

- ・医師:267名(医員・前期研修医を除く)
- ・看護職員:1053名
- ・専門職:314名
- ・事務職員:79名

○自施設の特徴

- ・高度急性期医療が中心

○自施設の担う政策医療

県内の5疾病5事業に関して、例えば以下のとおり中心的な役割を果たしている。

- ・がん 都道府県がん診療連携拠点病院
- ・脳卒中 脳卒中センターの設立(平成29年10月)
- ・急性心筋梗塞 365日24時間緊急カテーテル受入
- ・救急医療 高度救命救急センター(3次救急)、ドクターヘリの運航
- ・災害時の医療 基幹災害拠点病院
- ・周産期の医療 県内唯一の総合周産期母子医療センター 等

■自施設の課題

- ・高度急性期・急性期医療に特化し、在院日数の短縮とさらなる逆紹介の推進が必要
- ・医療需要の変化(高齢化に伴う疾病の変化)への対応
- ・県内医療機関との役割分担とネットワーク構築
(紹介、逆紹介の推進によるスムーズな患者移動)
- ・経営改善(設備投資等のコストが経営を圧迫。効率的な運営体制の確立が必要)
- ・医療従事者の働き方改革
- ・県内唯一の医育機関としての医療人育成

■ 地域において今後担うべき役割

○5疾病、5事業を含む、県内のあらゆる医療の高度急性期・急性期を担う

○地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ・総合診療科に在宅医療部門を立ち上げて次世代指導者養成システムを構築
- ・在宅看護に関する看護師特定行為研修の実施により特定看護師を養成
- ・休日・夜間の在宅医療を地域全体で支える仕組みづくりのコーディネート
- ・地域中核病院との連携協定締結による積極的な患者転院の実施

○その他

- ・新専門医制度に対応した人材の育成
- ・南奈良総合医療センターをはじめとした地域医療機関との機能分担、連携、人的支援の推進

■ 今後持つべき病床機能

- ・高度急性期病床及び急性期病床

② 自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

回復期・慢性期の機能は担わない。

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

地域の医療機関との紹介・逆紹介の推進

- ・超高齢化の進展に伴う人口構造・疾病構造・医療需要の変化等、本地域における社会ニーズの急激な変化に対応し、健全な経営基盤のもと、患者さんに良質な医療サービスを提供するためには、地域完結型の医療体制を実現する必要があります。
- ・そのためには、地域の医療機関の一層の機能分化と緊密連携が必須と考えます。
- ・当院は、今後も5疾病5事業をはじめとする県内のあらゆる医療について、高度先進医療の提供など、県民の最終ディフェンスラインとしての役割を果たしていきます。
- ・そして、急性期を脱した患者さんの医療を地域の医療機関の皆様にご担っていただきたいと考えており、これまで以上に紹介逆紹介や診療科毎のネットワーク構築を推進し、WIN-WIN の関係を実現していきたいと考えています。

・具体的には、

1. 紹介患者が当院を初診受診した旨の紹介元への報告の徹底、紹介元以外へ逆紹介する際にも紹介元へ報告を行うなど、丁寧な情報提供に取り組んでいます。

当院は紹介患者の診療を基本としており、現在のところ、高い紹介率を維持していますが、紹介状をお持ちの患者さんが、診察の予約なしに来院されるケースも多数あります。

また、当院は特定機能病院として、高度で先進的な医療の提供、また、地域医療計画においては高度・重症急性期患者の診療を役割としており、より多くの方にそういった医療を提供するためにも、スムーズな診察を行える初診予約を推進しています。

当院では、緊急患者や予約患者を優先的に診察せざるを得ないことから、紹介状はお待ちであっても診察の予約をされずに受診される場合、相当な待ち時間となり、結果的に大変な負担をおかけすることになります。

さらに、予約のない患者さんの診察を行うことにより、予約患者の診察時間の遅れや医師の診療計画への影響など、病院全体の運営や医師の働き方改革にも逆行することにつながります。

初診予約の推進のため、令和元年度からは連携登録医からの紹介患者からの直接予約を可能とし、従来の FAX やオンライン予約システムの活用とあわせ、当院受診の際は必ず事前予約をとっていただくよう各医療機関には地域医療連携室だより等を活用して呼びかけを行っています。

当院に課せられた役割を果たし、能力を十分に発揮することができるよう、完全予約制の実現を目標に、今後も引き続き事前予約制度の推進に取り組んでいきます。

2. 急激な高齢社会の到来をふまえ、地域包括ケアシステムの構築が急務となる中、当院と各中核病院は、互いのメリットを活かし、連携を強化していく必要があります。

また、相互の紹介・逆紹介をスムーズに行うため、各医療機関の特性を生かした機能性のある「診療科別の病病連携ネットワーク構築」に取り組み、医療圏内全体で患者ニーズに応じた質の高い医療の提供を実現していく必要があります。

そのための施策として、各機関の実務者間の情報共有と協議の場を、これまで以上に積極的に提供していきたいと考えています。

退院や転院の調整においては、当院における治療が完了した後も退院できず、待機患者の受け入れに支障となるケースがあります。独居老人や生活困窮者といった社会的問題を抱える患者について、地域の各施設の役割や機能に応じた受け入れがスムーズに行われるシステムの構築に向け、県全体で検討する必要があります。

そして、誰もが必要な時に適切な場所で最良の医療が受けられ、治療後はスムーズに安心して生活の場に戻れるよう、保健・医療・福祉・介護の機動的な連携が必要であり、当院はその中心的な役割を果たしていく責任があると考えています。

様式 2

2. 地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※様式1を踏まえた具体的な計画について記載してください

① 機能毎の病床数のあり方等について

※ (a)の列は、同封している「病床数一覧」のH28年度の数値を記入してください。

		(a) 〈H28年度〉 許可 病床数	※R元年度病床機能報告等の数値を記入		(b) 将来 (R7/2025年 度)	(b-a) H28年度か らの増減	
			〈R元年度〉 許可 病床数	稼働 病床数			非稼働 病床数(注1)
一般病床・療養病床	高度急性期	460床	423床	402床	21床	423床 ▲37床	
	急性期	重症	313床	367床	356床	11床	367床 54床
		軽症	67床	66床	65床	1床	66床 ▲1床
		回復期	0床	0床	0床	0床	0床 0床
	慢性期	0床	0床	0床	0床	0床 0床	
	休棟中	35床	19床		19床	19床 ▲16床	
	(合計)	875床	875床	823床	52床	875床 0床	
精神病床	108床	108床	104床	4床	108床 0床		
介護医療院		0床	0床	0床	0床 0床		

